

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0006 名古屋市中区葵1-27-32 カイフビル7階

HD ニュース

No.4
2013.04.15

今後の予定／於：事務局会議室

- 4月12日(金)19:00～ 役員会
- 4月16日(火)16:00～ 情報委員会
- 4月16日(火)18:00～ 相談委員会
- 4月16日(火)19:00～ 研修会(毎月・第3火曜日開催)
- 4月18日(木)18:00～ 木造技術研究会
- 5月16日(火)19:00～ 研修会

仮設住宅と建築家

副理事長 寺島靖夫

建築家、伊藤豊雄氏が建築界のノーベル賞といわれる「プリッカー賞」を受賞した。受賞の理由は今回の被災地と氏の関わり、特にいくつかの「みんなの家」実現へのプロセスに高い評価を得たと言われている。

2月、本会会員と一緒に小雪舞う岐阜県白川町の「災害仮設住宅上棟見学会」に参加した。仮設住宅とはいえ、かなり長期に使用できるよう平面計画、仕様、コスト、再利用可能工法など細部にわたって考えられた使い勝手に優れた住宅である。

陸前高田市の「みんなの家」を見ながら、「プリッカー賞かー」といささか複雑な気持ちとなった。氏は日経アーキテクチャー2013-03-10号で、このように言っている。「作品表現より設計プロセス。個を超

える個を。今のままでは建築家は社会に組み込まれない。」と。

なるほど、氏の精力的な被災地とのかかわりはあったであろうが、この位の努力は心ある建築士にとっては、特段、声を大にして叫ぶほどのことではない。また、このような行動を専門誌が取り上げなければならないほどの、建築家と称される人たちの社会的見識の低さを垣間見た気がした。

白川町の災害仮設住宅に関わる「木づなプロジェクト研究会」メンバーの努力は華々しく公にされることはないかもしれないが、このよう地道な仕事が適正に評価される時代になることが、一個人のプリッカー賞以上に重要であることを、改めて認識した。

第二回木造技術研究会の報告

木造技術研究会 片山繁行

3月28日午後7時から第二回木造技術研究会を開催しました。昨年は、木造の構造計算に取り組む為の基礎知識を習得しようということで、『ヤマベの木構造』に挑戦しましたが、難しかったという感想が会員から出されました。そこで、今年はもう少し「実利的」で「やさしい」読み物という事で、『木造住宅のための住宅性能表示』をテキストとして使用しています。

このテキストは、品格法の住宅性能評価、長期優良住宅、低炭素住宅等の審査基準（設計基準）になっており、審査機関もこの本を虎の巻として使用しています。第二回は「劣化の軽減」「維持管理への配慮」を勉強しました。

今回は、4月18日（木）です。省エネに一番関係

する「温熱環境」を行います。なかなか1人で勉強しようとしてもできないので、皆でワイワイガヤガヤと普段の悩みを話しながら勉強するのも楽しいです。

参加希望の方は、いつからでも受け付けていますので、事務局に連絡下さい。賛助会の方々も是非、参加下さい。

なお、研究会では、研修旅行（昨年は、姫路城改修・投入れ堂・倉吉白壁土蔵群見学）も企画しています。一人では行きにくいですが、行ってみたい所があれば、事務局まで希望をお伝え下さい。また、「ヤマベの木構造」をさらに勉強したいという希望も出ていますので、分科会形式で勉強会がもてないか検討しています。

本紙バックナンバーは当会のホームページ<http://www.sumaidoctor.or.jp>からご覧いただけます。

重量鉄骨2階建て店舗兼住宅を専用住宅に改修するリフォーム工事（工事中）についての現場調査の依頼がありました。

大工・塗装工事の施工精度、現場監督の知識力・適性、設計監理者である建築家（以下、建築士とする）の対応について、強い不信感を持たれたようです。幸い、建築主は若干の建築についての知識があったため、ここに至るまでに工務店・建築士とのやり取りによって大工・現場監督の交代、現場の中断、改善方法の検討を希望されました。しかし建築士が効果的な現場指示を出せず頼りにならない。また、竣工引渡し間際になって施工詳細の検討を始めたり、現場がどのように納められたか誰も知らない等々、建築主は監理建築士に力量の限界を感じ、第三者による検査の必要性を判断されたようです。

調査では問題点を洗い出すと同時に、建築士、現場監督に具体的な改善策を検討させ、実行するための「道筋」をつける狙いがありました。従って私が作成した報告書に対しての、質疑応答をすることにしました。更に下地が見える段階での目視検査確認を行ない終了予定としていましたが、状況次第では再検査も有ることとしました。

今回の是正措置で追加工事金額は発生させず、逆に手抜き工事の部分があり、監理建築士が現場を見抜けていないことを報告しました。以下に主な指摘事項を挙げます。

■行政手続きについて：長屋建て住宅に抵触する恐れがあり、建築家に認識が無かったので、行政機関への確認を指示しました。

■組込車庫の間仕切壁について：雨水に対する想定が建築主に伝わっていない。壁仕上げが耐水PB12.5+外部用EPで、耐久性を指摘しました。結果：腰部分をサイディング14に変更した。更に床の水勾配がゼロ、土台は土間コンクリートに直置きで、耐久性を

指摘しました。結果：原設計のまま、土間コンクリート部にコーキング処理とし、5～7年毎の建築主負担のメンテ費用が生じることになりました。建築主はこれを了解されました。



■間仕切壁の木柱が鉄骨梁にクランプで仮止めされたまま：仮設は不可、本設固定を指示しました。構造設計者から風圧力を考慮し鉄骨補強の提案がありましたが、現場上向き溶接に頼ることを指摘しました。結果：監理建築士・構造設計者が責任を持つことで決着しました。



■内部出入り口床下のフリーフローア納りについて：段差を生じ易い設計が原因と指摘しました。結果：メーカーに打合せ確認の上、補強を伴ってやり直しになりました。

■間仕切壁の入隅出隅下地不良：縦下地が無いのでJASS11に従うよう指示しました。結果：代替で、横下地間隔を2倍にしました。

■屋根からの雨漏りの履歴が有り、原因不明のまま：そのような状況で内装工事を進行させていることがそもそも有り得ない。笠木と立上りに大きな隙間が有り、かつ防水シート末端が未処理で、そこから雨水が浸入している可能性を指摘しました。

■マンション大規模修繕研究会 3/21 18:00～19:00
日程間違いの開催案内をしたために、中止。ご迷惑をお掛けしました。次回は、5月21日(火)

■情報委員会 3/22 13:00～14:30
HPの運営について。各委員会の掲載作品の更新。

■技術研修会 3/28 19:00～21:00

「再入門！住宅性能評価&長期優良住宅」
講師：@ERI 倶楽部名古屋支店 評価部長加藤隆彦

■木造技術研究会 3/28 19:00～21:00

「木造住宅のための住宅性能表示」読み合わせ。